

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 46-2
通号 第 115 号

「あかんさす」とは、浦和博物館2階バルコニー柱頭に見られる植物の葉の彫刻で、当館を象徴するキーワードの一つとなっているものです。

幕末維新の村絵図(2)

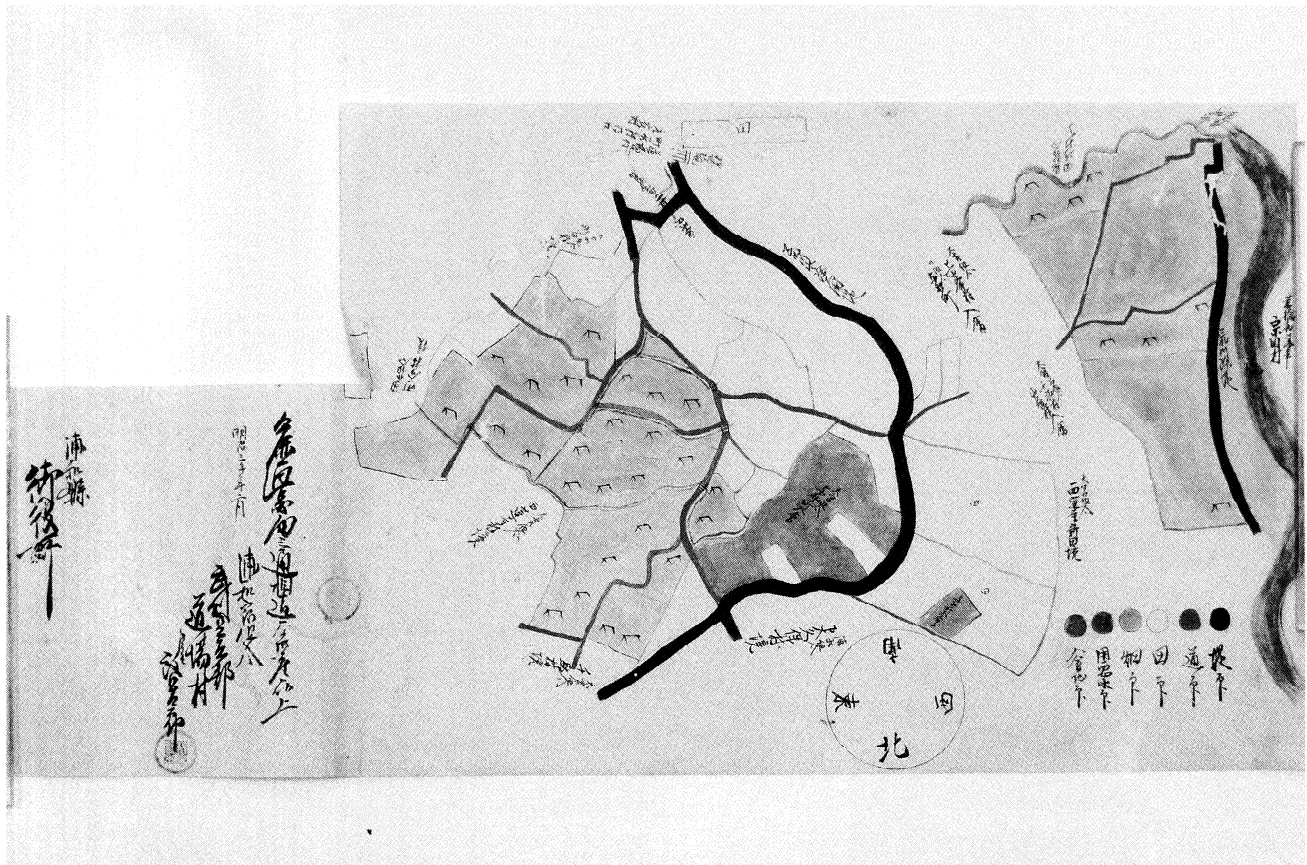


図1 道場村絵図 明治3年(1870) (個人蔵 さいたま市立浦和博物館寄託、以下同じ)

前号では、特別展「幕末維新の村絵図」(平成29年10月21日~12月3日)で展示した資料の中から、幕末に描かれた絵図6点のうち、天保7年(1836)の上山口新田絵図を例に取り上げ、作製の背景や村の概要、絵図の内容について紹介しました。

今回の特別展では、明治3年(1870)2月に作製された村絵図20点も展示しました。これらの村絵図が、いずれも同時期に描かれている理由に

は、共通点がありそうです。

そこで今号では、明治維新时期に描かれた村絵図の代表例として、道場村絵図(図1)を取り上げ、作製の背景や内容について紹介します。

明治3年(1870)の村絵図

平成29年11月25日開催の、特別展関連講座「明治初期の村絵図について」一室武笠家所蔵新出資



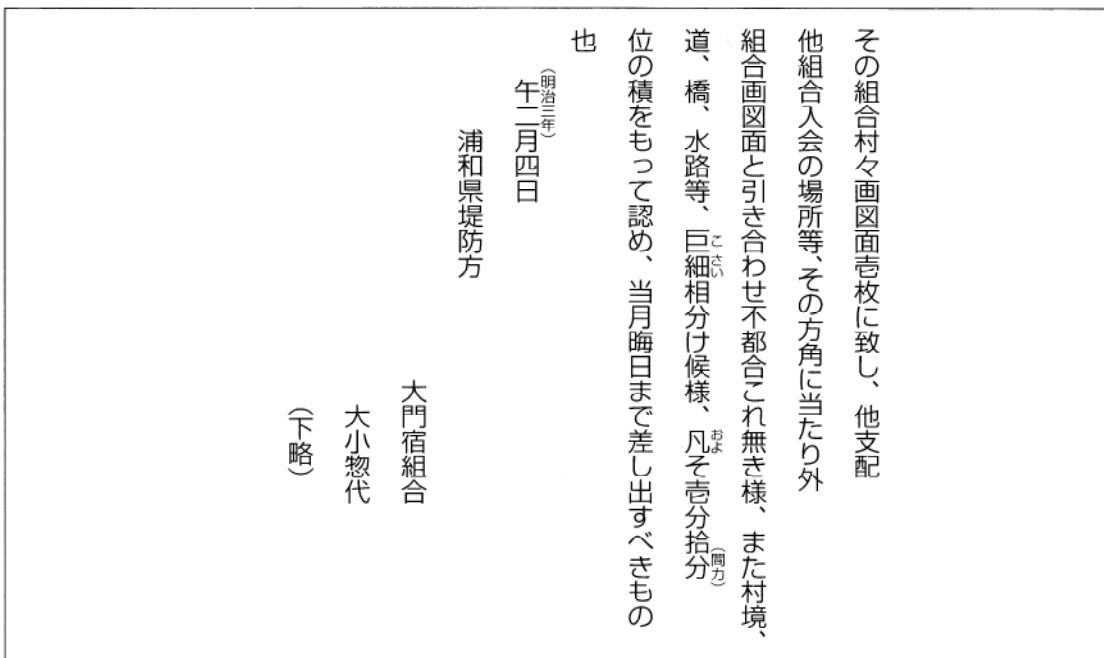


図2 「急廻状」(坂東家文書 553 原資料：個人蔵 埼玉県立文書館寄託)
※読みがなは、さいたま市立浦和博物館で挿入

料を中心に」において、講師の重田正夫氏により、明治3年2月4日付けで浦和県堤防方から大門宿役人宛てに出された、村絵図作製通知(図2、以下「通知」とする。)の資料分析と、これら展示資料の村絵図との比較検討がなされました。

「通知」の要点は、①組合村々の絵図面は1枚に収める、②他の領主や他の組合村入会地について、その方角が他の組合村絵図面と合わせた際に矛盾しない、③村境・橋・水路等は、詳細に記す、というものです。

この「組合村」とは、文政10年(1827)に幕府により設置された寄場組合を指しています。

今回展示した明治3年の村絵図20点は、三室村武笠家が惣代を務めた寄場組合の一つ、浦和宿組合に属する村々のものであることから、浦和宿組合宛てに出された同様の通知は現時点では確認できないものの、上記浦和県堤防方から出された通知に応じて作製されたものとみなすことができると同講座で指摘されました。

道場村絵図の概要

道場村は、おおむね現在の桜区道場1丁目～5丁目及び大字道場、栄和6丁目の一部、町谷2丁目～4丁目的一部分にかかる区域に当たります。荒川左岸の自然堤防上に位置し、「平原原」と称する堤外地に広大な新田がありました(図3)。

江戸時代初期は幕府領でしたが、正保年間(1644～48)以降は旗本保々氏の領地となり、明治維新に至りました。

同村の絵図は、「通知」で示された通り、一枚物の手書き平面図で、縦27.4cm×横39.3cmの絵図左下余白に、縦15.9cm×横14.2cmの書付を継いだ形態で、全面に裏打ちが施されています。

絵図右下余白部分の凡例によると、彩色区分は、右側から黒色が「堤印」、朱色が「道印」、無地が「田印」、黄土色が「畑印」、青色

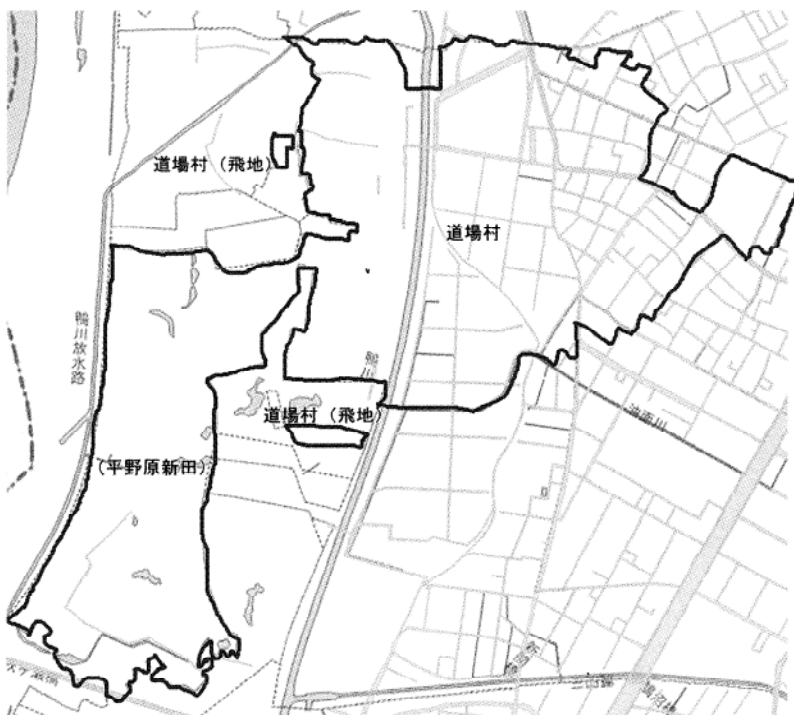


図3 江戸時代の道場村(現在の境界及び自治会区域等を参考に推定)



が「用悪水印」、灰色が「入会地印」
 となっています。方位は、絵図下方
 に円囲いで「東西南北」の記載があ
 りますが、「南」を上を描いていま
 す（図4）。なお、縮尺の記載はあ
 りません。

他村入会地

「通知」でも特に記載上注意が求
 められていた他村入会地について、
 道場村絵図を見てみると、「大宮組
 合上峯（現・中央区上峰）村、同組
 合与野町（現・中央区本町東、本町
 西、桜丘ほか）入会」、「大宮宿組合
 千駄村（現・桜区栄和）、山久保村
 （現・桜区山久保）入会」、「大宮組合与野町入会」、
 「与野町入会」という、4か所4町村の入会地が
 認められます。この中でも特に与野町の入会地面
 積が大きかったことが見て取れます（図1・図
 4）。

村境・橋・水路等

これらは、「通知」で詳細に記載することとさ
 れたものです。村境については、西方荒川対岸が
 「前橋知藩事 宗岡村（現・志木市宗岡）」、西方
 堤外地と新田の間が「大宮組合西蓮寺村（現・桜
 区栄和）新田境、南方が「浦和宿組合町谷村（現・
 桜区町谷）境」、東方に「大宮組合西蓮寺村」、北

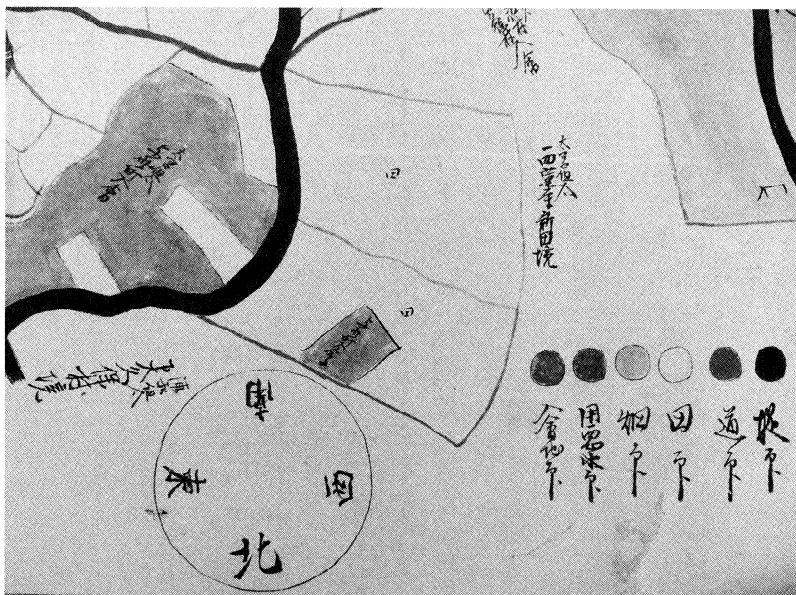


図4 凡例・方位

方が「浦和組合下大久保村（現・桜区下大久保）
 境」に、それぞれ接していたことを明示していま
 す。

橋については、町谷村境から村中央部を縦断し
 て下大久保村に抜ける道筋に4か所認められるほ
 か、村内に計7か所の橋があったことが示されて
 います（図5）。

水路については、大河川の荒川のほか、村内の
 水田を灌漑する用水路が、東方町谷村境から入
 り、畑地を通過して村内西方の各水田に流れていま
 した。また、南方堤外地新田地内からは、町谷村、
 元宿村方面へ悪水堀（排水路）1か所が確認でき
 ます。

その他の描写

道場村絵図において特徴的な描写
 は、黒色の太線で描かれた「荒川水
 除大囲堤」と「荒川除堤」です。荒
 川大囲堤は、江戸時代初期の慶長年
 間（1596～1615）頃から築造を開始
 し、これ以前に造られた断続的な水
 除堤を連続的な堤に改良しつつ、慶
 安年間（1648～52）頃までに完成し
 たと考えられています（註1）。

土地の利用形態を見ると、村の東
 部は、西蓮寺村境から村を南北に縦
 断する道筋付近までが畑地で、人家
 もこの地区に密集しています。村の
 西部の荒川境にある新田も畑地で、
 こちらにも人家が点在しており、こ

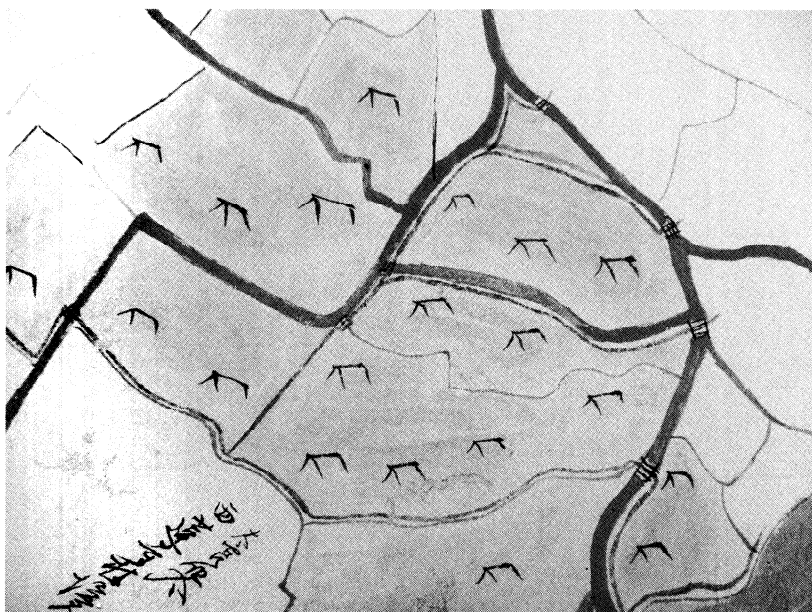


図5 橋・水路



の間にある大田堤の両側は田地と他村の入会地となっています。なお、人家を示す記号は村全体で34軒が描かれています。文政年間（1818～30）に編さんされた『新編武蔵風土記稿』・道場村の項には、「民戸七十」と記述があり(註2)、絵図に描かれた数よりも多いことから、絵図上の人家の記号は、全ての人家を表したのではなく、集落の位置を示す象徴的描写だといえそうです。

(註1)『浦和市史 通史編Ⅱ』351頁 昭和63年 浦和市総務部市史編纂室

(註2)『新編武蔵風土記稿 第8巻』(大日本地誌体系14) 昭和56年 雄山閣

書付部分

「鹿画図面之通相違無御座候」として、絵図と村の現況に間違いがないことを述べ、「明治三年年二月」の年月とともに、差出者(=村絵図作製責任者)として「浦和宿組合武州足立郡道場村 名主 啓太郎」、「浦和県御役所」と宛名を記して

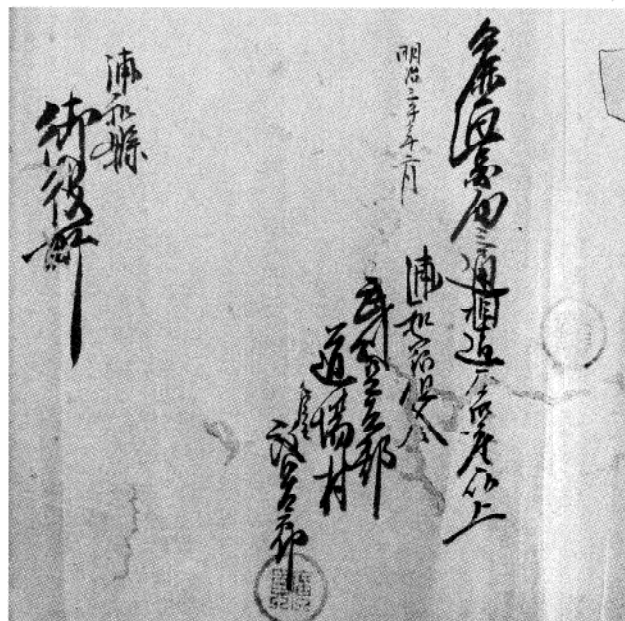


図6 書付部分

います。絵図との継ぎ目には、名主の割印が1か所押されています(図6)。

日誌抄 (平成29年度下半期)

H29/10/11(水)～12/6(水) 博物館学芸員インター研修(12日間)
 10/21(土)～12/3(日) 特別展「幕末維新の村絵図」
 10/21(土)・11/3(祝)・26(日) 特別展展示解説
 11/1(水) 善前小学校(3年生)体験学習
 11/25(土) 特別展関連講座「明治初期の村絵図について」
 12/16(土)～3/25(日) 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」
 H30/1/6(土)～1/8(祝) 昔のあそび
 1/8(祝) おもちゃづくり
 1/17(水)～1/19(金) 中学校職場体験(木崎中)

1/24(水)～1/26(金) 中学校職場体験(本太中)
 2/1(木) 浦和ルーテル学院小学校(3年生)体験学習
 2/1(木)～3/25(日) 昔の道具さがし
 2/6(火)～2/8(木) 中学校職場体験(美園中)
 2/8(木) 川口市立戸塚東小学校(3年生)体験学習
 2/8(木)～2/9(金) 中学校職場体験(埼玉大学教育学部附属中)
 2/21(水) 埼玉大学教育学部附属小学校(3年生)団体見学
 2/21(水)～2/23(金) 中学校職場体験(浦和中)
 3/17(土)～3/25(日) 昔のあそび

さいたま市立浦和博物館館報 あかんさす No115

編集・発行 さいたま市立浦和博物館
 〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地 TEL・FAX 048-874-3960
 発行日 平成30年3月23日
 ホームページ <http://www.city.saitama.jp/004/005/005/004/002/index.html>
 E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp



この館報は2,000部作成し、1部当たりの印刷経費は26円です。

